

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

私が同志社女子大学を受験校に決めた理由は、もともと幼児教育や子ども学に興味があり、いろいろと大学を調べていたところ、同志社女子大学の現代こども学科を見つけました。カリキュラム内容や「こども」などの独自の授業や企画にとっても魅力を感じたため、受験校に決めました。

- (2) 一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

高校の授業が受験対策へと変わるため、授業でやったことの復習や解き直しを必ずするように心がけました。また、基礎を固めることがとても大切だと思ったため、単語や熟語、また1,2年生で学んだことの復習などを主にするようにしていました。

〔夏休み〕

1学期に学んだことの復習や基礎固めに力をいれると同時に、問題演習などの実践的なことも行うようにしました。また、理科、社会についても語句を覚え練習問題などに取り組みました。そして、今まで受けていた模試を解き直し、解説を読みこんで、まとめたりもしました。

〔2学期～入試直前〕

2学期の初めは、夏休みの続きに取り組み、中にはセンター対策をはじめました。秋は模試が多いため、模試を受けて、解き直して、解説を読み、まとめることをくり返しました。11月、12月頃からは、センターの過去問や実践問題、模試の解き直しなど、センター試験まで最終確認を行いました。センター試験が終わったら、すぐに気持ちを切り換え、私立大学や国公立大学の過去問や問題演習に取り組み、次の試験に臨むようにしました。

- (3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

私は吹奏楽部に入っており、引退まで続けるか悩んだ時期もありました。朝早く学校に行き、勉強をしたり、放課後部活のあと残ったり、お昼ごはんを早く食べて自習室に行ったりして、同じ目標を持つ友達と一緒に合間の時間を使い勉強し、部活も行事も最後まで全力で楽しみながら取り組みました。つらいときや悩んだときは、友達や先生に相談することでとても気持ちが軽くなりました。また、学校から帰って勉強する際、規則正しい生活ができていないことが多かったため、冬休みに生活を直しました。テレビは3年生になったからは控え、スポーツは気分転換によく利用しました。

- (4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

受験生になって大変なことやつらいことがたくさんあるかもしれませんが、一人で抱えこまず、受験が終わったときに、「あのときこうすればよかった」という後悔がないよう、今できることやせうとうと思っていることを全力で取り組むことが大切だと私は思いました。最後まで諦めず頑張ってください。